

仕入れて売る

～商品売買の取引～

講師
粕谷和生

今回は商品売買の取引について学習します。まず、3分法による記帳法を簡単な例によって説明しますので、「実践簿記演習」でマスターしてください。次に商品売買取引の明細を記録する仕入帳と売上帳の記入例を紹介しします。また、商品有高帳の記入方法も学びます。

調べておこう・覚えておこう

分記法／3分法／仕入／
売上／繰越商品／商品有高帳／
先入先出法／移動平均法

3分法とは

これまでの商品売買取引の記帳は、売価を仕入原価と商品売買益に分けて記帳する「分記法」といわれる記帳法でした。今回は、商品売買の取引を仕入、売上、繰越商品の3つの勘定を使って記帳する「3分法」という方法を学びます。

Key Word：3分法

ポイント 仕入勘定（費用の勘定） 売上勘定（収益の勘定） 繰越商品勘定（資産の勘定）

次に3分法による仕訳例を示します。

【例】商品¥50,000を仕入れ、代金は掛けとした。

(借) 仕入 50,000 (貸) 買掛金 50,000

【例】上記の商品を¥70,000で売り渡し、代金は掛けとした。

(借) 売掛金 70,000 (貸) 売上 70,000

商品を売り上げたときは、仕入原価を考えずに「貸方 売上 70,000」と仕訳します。なお、「繰越商品勘定」は決算日にだけ登場します。この勘定は第17回で学習します。

【実践簿記演習その1】

取引例 次の取引の仕訳を示し、仕入勘定に転記してみましょう。

7月3日 埼玉商店から次の商品¥61,000を仕入れ、代金は掛けとした。

A型電卓 20台 @¥1,700 ¥34,000

B型電卓 30台 @ ¥900 ¥27,000

4日 埼玉商店から掛けで仕入れた上記商品のうち、B型電卓5台が破損していたので¥4,500を返品した。

10日 千葉商店から次の商品¥50,000を仕入れ、代金は掛けとした。なお、引取運賃¥2,000は現金で支払った。

B型電卓 50台 @¥1,000 ¥50,000

仕訳と解説

- 7月3日 (借) 仕入 61,000 (貸) 買掛金 61,000
 ※A型電卓とB型電卓の仕入金額を合計して仕訳する。
- 4日 (借) 買掛金 4,500 (貸) 仕入 4,500
 ※返品や値引の取引は、仕入れたときの逆の仕訳を行う。
- 10日 (借) 仕入 52,000 (貸) 買掛金 50,000
 現金 2,000
 ※引取運賃¥2,000は仕入勘定に含めて計上する。

		仕 入			
7/3	買掛金	61,000	7/4	買掛金	4,500
10	諸口	52,000			

※7月10日の仕訳の借方仕入の相手勘定科目は、複数あるので仕入勘定の摘要欄には「諸口」と記入する。

ポイント 引取運賃 → 仕入に加算する

仕入返品・値引 → 仕入れたときの逆仕訳

【実践簿記演習その2】

◀ **取引例** 次の取引の仕訳を示し、売上勘定に転記してみましょう。

- 7月16日 秋田商店に次の商品¥125,000を売り渡し、代金は掛けとした。
 A型電卓 40台 @¥2,000 ¥80,000
 B型電卓 30台 @¥1,500 ¥45,000
- 17日 上記商品のうち、B型電卓2台が品違いのため、¥3,000返品された。
- 25日 福島商店に次の商品¥40,000を売り渡し、代金は同店振り出しの小切手で受け取った。なお、発送費¥1,000は現金で支払った。
 A型電卓 20台 @¥2,000 ¥40,000

仕訳と解説

- 7月16日 (借) 売掛金 125,000 (貸) 売上 125,000
 ※A型電卓とB型電卓の売上金額を合計して仕訳する。
- 17日 (借) 売上 3,000 (貸) 売掛金 3,000
 ※返品や値引の取引は、売り渡したときの逆の仕訳を行う。
- 25日 (借) 現金 40,000 (貸) 売上 40,000
 発送費 1,000 現金 1,000

		売 上			
7/17	売掛金	3,000	7/16	売掛金	125,000
			25	現金	40,000

ポイント 売上返品・値引 → 売り上げたときの逆仕訳

仕入帳・売上帳に細かく記入

仕入取引の明細を記入する補助簿を「仕入帳」といい、売上取引の明細を記入する補助簿を「売上帳」といいます。どちらの帳簿にも「取引先名（どこから、どこへ）、決済条件（どのように）、商品名（何を）、数量（いくつ）、単価（いくらで）など」が記入されます。

また、返品や値引があった場合は赤で記入します。

Key Word：仕入帳／売上帳

番組では、下記の仕入帳と売上帳は締め切ったところまでは示していませんが、ここでは締め切りまでを例示します。

仕 入 帳

平成 〇年	適 用	預 入	残 高
7 3	埼玉商店 掛 け		
	A型電卓 20台 @¥1,700	34,000	
	B型電卓 30〃 〃〃 900	27,000	61,000
4	埼玉商店 掛け返品		
	B型電卓 5台 @¥900		4,500
10	千葉商店 掛 け		
	B型電卓 50台 @¥1,000	50,000	
	引取運賃現金払い	2,000	52,000
31	総仕入高		113,000
〃	仕入返品高		4,500
	純仕入高		108,500

売 上 帳

平成 〇年	適 用	預 入	残 高
7 16	秋田商店 掛 け		
	A型電卓 40台 @¥2,000	80,000	
	B型電卓 30〃 〃〃 1,500	45,000	125,000
17	秋田商店 掛け返品		
	B型電卓 2台 @¥1,500		3,000
25	福島商店 小切手		
	A型電卓 20台 @¥2,000		40,000
30	総売上高		165,000
〃	売上返品高		3,000
	純売上高		162,000

商品有高帳はオモシロイ

商品有高帳とは、商品の種類ごとに口座を設けて、受け入れ・払い出し・残高の明細（数量・単価・金額など）をそれぞれ記入する補助簿です。商品有高帳の記入にあたり、払出欄の単価の決め方にはいくつかの方法がありますが、ここでは「先入先出法」と「移動平均法」を取り上げます。

先入先出法とは、先に受け入れた商品から先に払い出すものと考えて（仮定して）払出単価を決める方法です。また、**移動平均法**とは、仕入れのつど平均単価を計算して、それを払出単価とする方法です。それぞれの仕組みを番組ではわかりやすく解説していますので確認しましょう。

Key Word：先入先出法 移動平均法

ポイント 先に入った単価から先に出るのが先入先出法
仕入れのつど平均単価を出すのが移動平均法

次に示す[問1]と[問2]は、番組に出てくる数値例と同じです。

問1 次の取引を商品有高帳に記入しなさい。ただし、先入先出法によること。

8月1日 X商店から単価¥100のA商品を5個仕入れた。

7日 Y商店から単価¥150のA商品を5個仕入れた。

10日 Z商店にA商品を8個売り上げた。

商品有高帳

(先入先出法) 品名 A品 単位：

平成 〇年	適用	受入			払出			残高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額

問2 上記の取引を商品有高帳に記入しなさい。ただし、移動平均法によること。

商品有高帳

(移動平均法) 品名 A品 単位：

平成 〇年	適用	受入			払出			残高		
		数量	単価	金額	数量	単価	金額	数量	単価	金額

解答

[問 1]

商品有高帳

(先入先出法) 品名 A品 単位：

平成 〇年	適 用	受 入			払 出			残 高		
		数量	単 価	金 額	数量	単 価	金 額	数量	単 価	金 額
8	1 X商店	5	100	500				5	100	500
	7 Y商店	5	150	750				5	100	500
								5	150	750
10	Z商店				5	100	500			
					3	150	450	2	150	300

[問 2]

商品有高帳

(移動平均法) 品名 A品 単位：

平成 〇年	適 用	受 入			払 出			残 高		
		数量	単 価	金 額	数量	単 価	金 額	数量	単 価	金 額
8	1 X商店	5	100	500				5	100	500
	7 Y商店	5	150	750				10	125	1,250
10	Z商店				8	125	1,000	2	125	250